



図書館建設プロジェクト報告



完成予定図書館

スプートニクがアフィフェ村のデバインアカデミースクールで活動を始めて 10 年。活動当初より持ち続けていた図書館建設の夢がこの度、持続化給付金を受けたことにより実現する運びとなりました。小さい図書館ながらも建設資金はかなりの金額となるため、ガーナの活動に個人的にサポートをしてくださっている一般社団法人ギヴアウェイ様のサポートを受けまして図書館建設プロジェクトをおこなっていきます。この報告書では、図書館完成までの様子を紹介していきます。



フェリシモ様からの協賛でつくった書架



書架の置かれているところの壁に亀裂

現在、オフィスと呼ばれる倉庫にフェリシモ様の協賛でつくった鍵付きの書架を三架置き図書館として使っています。その大切な書架が置いてある壁に亀裂が生じ始めていました。持続化給付金は、不足している机の購入も考えましたが、以前より雨漏りの被害があり、今にも壁が壊れてしまいそうなこのオフィスを造る事に決めさせていただきました。大きさはゲートにあるセキュリティハウスと同じ大きさのものを造ります。セキュリティハウスは、デバインアカデミースクールのスクールカラーの青×黄ですが、完成する図書館の色は屋根が緑、壁が黄緑色になります。



5月25日撮影

建設工事は、5月24日より始まりました。二日目にあたる翌日は基礎工事がおこなわれていました。



5月25日 この日は現場監督を含む4人のワークマンが作業をしていました。



5月27日 2回目の支払い13%

村人が労働をした際の支払いについて確認をしました。
その場合は現場監督が支払うので問題なし。



5月28日 この日の作業はお休み。前日までの作業で土台まで出来ていました。

工事開始に至るまでのながれ

- 4月8日 コントラクターに見積もり依頼
- 4月12日 カーペンターがセキュリティハウスの実寸を図りに来る
- 4月22日 見積書があがってくるものの合計金額が違うため再度チェックするように指示
- 4月23日 見積書、訂正された金額をスプートニク日本側に報告
- 4月29日 スプートニク日本側の理事会にて図書館建設が承認される
- 5月3日 工事請負契約書日本語版のひな型をダウンロードしたものを英文にする作業
- 5月7日 スプートニク理事秋澤作成の図書館寄贈に際しての手紙をアウストビィ氏に届ける
とともに秋澤とアウストビィ氏が電話で話す
- 5月10日 コントラクターに見積額で工事依頼をするものの燃料費があがっているという理由
で見積額の5%がプラスされる
- 5月12日 5%アップした合計金額を承認して改めて正式に工事依頼をする。契約および一回
目の支払いを20日に行いたいと連絡する

- 5月17日 コントラクターより建築資材高騰により支払いは一回で全額を支払うことを希望すると返信がくる。これに対して、金額が大きいうえ安全面を考え全額支払いはしないで3週連続で支払うこと、大使館や JICA の建物案件では最初に70%の支払いであること、こちらの支払いも同様に初回70%の支払いをすると返信をしてコントラクターの了解を得る
- 5月20日 契約日および初回75%の支払い
- 5月24日 建築資材搬入および工事開始
コントラクターの兄が会社経営者にあたるため、コントラクターのお兄さんより直接学校の代表者であるアウストビィ氏に挨拶の連絡を入れてもらう
- 5月26日 賃金支払いに関する確認をする※正式に雇われている大工を國分自身は把握していなく村人が賃金目当てで労働をしても賃金支払いをすることは出来ないので現場監督にしっかりと大工の管理をしてほしいと連絡をする

今回の図書館建設は小さい建物のため2か月あれば完成する見込みです。コントラクターに見積依頼をしたのが4月初旬で工事請負契約を交わしたのが5月20日です。その間、ガーナでは国会の審議を通過したことにより、消費税率、ガソリン税などが5月1日より上がりました。また今回のコロナにより消費税に Covid-19Health Reco-very levy として1%がうわのせされるようになりました。ガソリン税の値上げは、エネルギー関連事業に対する政策支援や衛生、汚染に対する改善政策支援に充てる目的のもので、消費税率、ガソリン税ともに税率としては小さなものですが、これらを理由に今回のプロジェクトで一番かかわりのある建築資材を輸送するためのコストの値上げを5月10日に言われたのも、また5月17日に工事請負金額の一括支払いを打診されたのもうなづけます。建設プロジェクトにおいて契約時に70%の支払いをして残りは完成引き渡し時に支払うこともあるようですが、物価の上昇を考え支払いは三週連続で支払うをコントラクターに承諾してもらいました。建物建設に携わることはこれまでの経験にないことで、初めて耳にする言葉やネットでダウンロードしたフリーとは言え工事請負契約書を目にするもの初めてで、それを英文に直す作業も翻訳ツールを使っても苦手な英単語、英文と丸一日戦いながらの作業でした。しかし、これら全ての作業の行き着く先に小さいながらも念願の図書館があると思うと楽しい作業と変わってきました。建物工事が始まり一週間、外国人が目に見える大きなものを寄贈するという事は周囲の目が良くも悪くも変わってくるのを既に痛感しています。図書館建設は、大きな前進であるけれどまだまだ小さな一歩。図書館建設構想が実現できると思った日から、ずっと自分を奮い立たせる応援歌で「愛は勝つ」が頭の中に流れています。コロナで大きく世界が変わってしまっても他人を変えることは出来なくて、何なら私が変わればよいだけのことであり、世界がどんなに変わろうとも、子どもたちに対する愛は変わらずに持って行こうと、愛が変わってしまうなら、よりいっぱい愛を持って行こうと、より一層思うようになりました。

建設工事は始まったばかり、次回の報告は2週間後の6月14日(月)を予定しています。

5月31日(月) 國分敏子